



TITLE:

# 阿蘇山2014-2016年噴火粗粒火砕物の岩石学的特徴

AUTHOR(S):

長井, 雅史; 三輪, 学央

---

CITATION:

長井, 雅史 ...[et al]. 阿蘇山2014-2016年噴火粗粒火砕物の岩石学的特徴. 2017: 共同研究 (一般研究集会) 28K-07.

ISSUE DATE:

2017-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227480>

RIGHT:

# 阿蘇山2014-2016年噴火粗粒 火砕物の岩石学的特徴

長井雅史・三輪学央(防災科研)

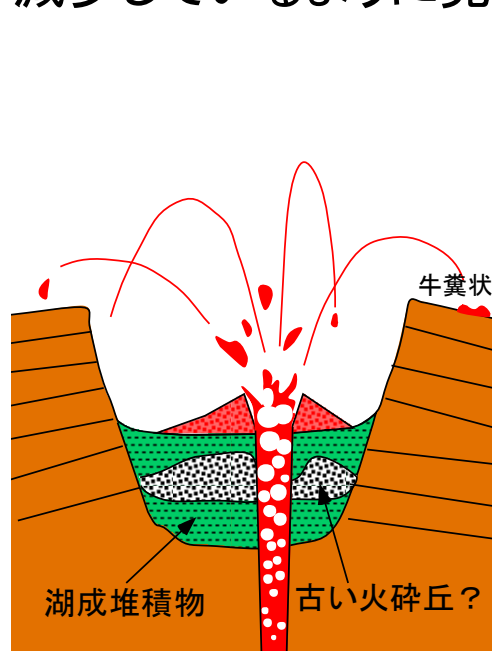


# まとめ

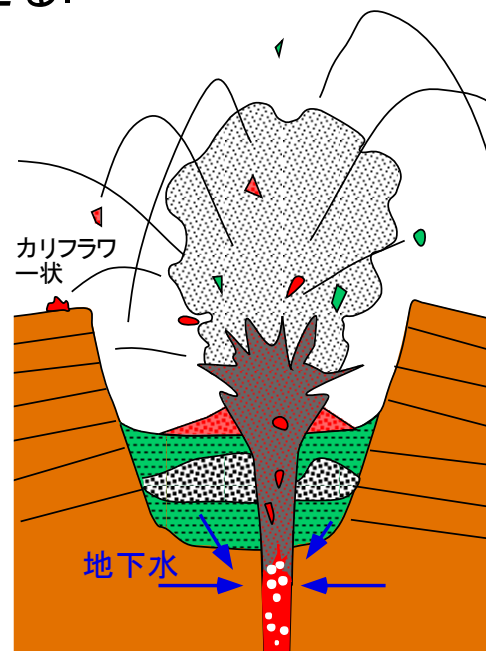
- 2014年11月以降の噴火では、中岳火山の最近の活動と類似した玄武岩質安山岩マグマが噴出した、
- 2016年10月8日噴火では、関与したマグマの組成は明らかではない。少なくとも粗粒なマグマ片が放出された証拠は得られていない。

様々な観察結果と総合すると、高温状態で定置した岩片は、火口底や火道周辺に存在し加熱されていた変質した最近の噴出物もしくはより古い中岳火山噴出物が爆発の際に破壊・放出されたものと考えられる。

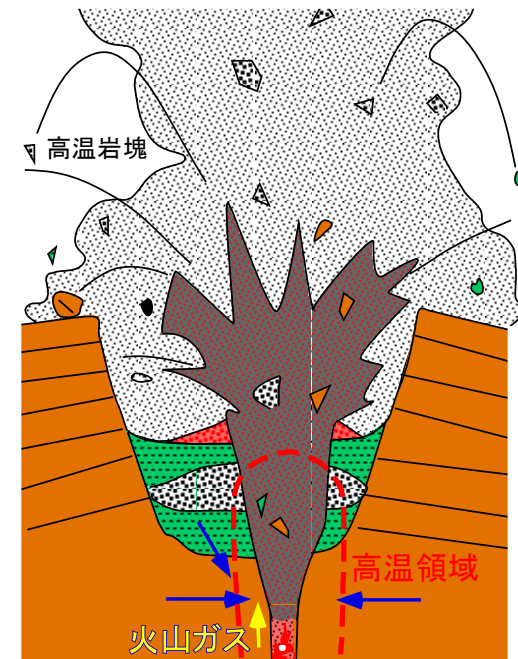
- 2015年秋以降、大きめな噴火におけるマグマの関与の程度は、次第に減少しているように見える。



2014年11月～2015年5月  
ストロンボリ式噴火  
(+ 灰噴火)



2015年9月～10月  
水蒸気マグマ噴火  
(マグマの関与 大)



2016年10月8日  
水蒸気マグマ噴火  
(マグマの関与 小)